

Ⅱ 国語科の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

- ◎ 「大問・領域」には「読むこと」（文学的な文章と説明的な文章）〔言語事項〕「書くこと」を示した。「設問のねらい」には、小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の5観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の分析と指導のポイント」について

- ◎ 調査結果の分析については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続して見られる課題」を示し、指導のポイントについては、今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点を示した。また、文末の「○ページ参照」は、次の3「領域別調査結果の考察と指導のポイント」の内容との関連箇所を示している。

3 「領域別調査結果の考察と指導のポイント」について

- ◎ 大問ごとに問題・正答・誤答例・結果等について左ページに、その考察（概要・指導のポイント）について右ページに記した。

・分析等では、小数第2位を四捨五入した調査結果を用いている。

（※誤答例は、抽出生徒の主な誤答について頻度の高いもの）

1 設問のねらいと評価

評価の観点：関…国語への関心・意欲・態度 話…話す・聞く能力 書…書く能力 読…読む能力 言…言語についての知識・理解・技能

領域	大問	小問	設問のねらい	観点別評価				
				関	話	書	読	言
(文学的文章) 読むこと	1	問1	登場人物の行動から心情をとらえて読むことができる。				○	
		問2	表現に即して、具体的な内容を読み取ることができる。				○	
		問3	文章の展開に即して、内容をとらえることができる。				○	
		問4	文章の展開に即して内容をとらえ、登場人物の行動や心情について説明することができる。				○	
		問5	表現の仕方に注意して、内容を正確にとらえることができる。				○	
		問6	内容全体を理解し、作品の主題についてとらえることができる。				○	
(説明的文章) 読むこと	2	問1	説明的文章で話題を提示している部分について、理解することができる。				○	
		問2	指示語を含む表現が示す具体的な内容を読み取ることができる。				○	
		問3	文章の展開に即して、適切な接続語を選ぶことができる。				○	○
		問4	文章の内容を整理し、必要な情報を正しく読み取ることができる。				○	
		問5	慣用句の効果的な使い方を理解し、内容の理解に役立てることができる。				○	○
(漢字の読み書き) 言語事項	3	1	小学校6年生までに学習した漢字を正しく書くことができる。					○
		2						○
		3						○
		4						○
		5	小学校6年生までに学習した漢字を正しく読むことができる。					○
		6						○
		7						○
		8						○
(漢字の読み書き以外) 言語事項	4	問1	(1) 同音の漢字の意味の違いを捉え、文脈に沿って適切な漢字を選ぶことができる。					○
								○
		問2	敬語を正しく使うことができる。					○
		問3	代表的な古典に親しみ、冒頭部分を読むことができる。	○			○	○
		問4	行書で書かれている文字を楷書で書くことができる。					○
(条件作文) 書くこと	5		二つの詩(一部)のどちらか一つを選び、内容についての感想を体験や出来事と結び付けて書くことができる。	○		○	○	○

2 調査結果の分析と指導のポイント

(1) 調査結果の分析 (◇…成果、◆…課題)

全 体	◇文学的文章を読んで、内容を正確にとらえ、登場人物の行動から心情を読み取ることはできている。 ◇◆言語事項の既習内容は、おおむね身に付いているが、一部に課題が見られる。
領 域 別	〈読むこと〉 ◇文学的な文章の内容を表現に注意しながら読み、登場人物の心情をとらえることはできている。 ◆説明的文章を文章構成に注意して読み、内容の理解に役立たせることには課題がある。 〈書くこと〉 ◇昨年度より正答率が上がり、書くことに意欲的に取り組む姿勢が見られる。 ◆書かれている内容を基に、自分の経験などと結びつけて考えを書くことに課題がある。 〈言語事項〉 ◇敬語を正しく使うことや、行書の書き方はよくできている。 ◇◆小学校6年生までに学習した漢字の読み書きはおおむねできているが、一部定着に課題がある。 ◆同音の漢字の意味の違いをとらえ、文脈に沿って適切な漢字を書くことには課題がある。
継 続 し て 見 ら れ る 課 題	◆文章の中から必要な内容を読み取り、条件に合わせて適切に表現すること (p. 7 参照) ◆指示語が示す内容を文脈に沿って正確に読み取ること (p. 9 参照) ◆漢字のもつ意味を理解して適切に使うこと (p. 11 参照) ◆原稿用紙を正しく使うこと (p. 13 参照)

(2) 指導のポイント

〈読むこと〉 ○文章の表現の仕方や特徴に注意して、読み取ったことについて説明する力を身に付けるために、読んで考えたことについて意見交流させる活動を積極的に取り入れる。 ○文章から必要な情報を見付けて、図表で表したり、図表が示す内容を言葉で説明したりというように、情報を目的に合わせて加工する活動を積極的に取り入れるといった、情報活用能力を身に付けさせる。 〈書くこと〉 ○目的に応じて書く力を身に付けるために、「読むこと」をはじめ、「話すこと・聞くこと」「言語事項」の学習においても、書く活動を効果的に取り入れることを意識する。 ○読みやすくわかりやすい文章を書く力を身に付けるために、書いた文章を読み返し、伝えたいことが明らかになるよう語句と語句、文と段落との相互関係などについて推敲する指導を積極的に取り入れる。また、ペアやグループで検討する場面を設けるなど、交流による学習活動を工夫する。 〈言語事項〉 ○言葉への関心を高め、豊かな言語活動を身に付けるために、日ごろから辞書を活用し、漢字が示す意味や文脈における語句の意味を押さえながら、具体的な言語活動に結び付けて学習させる。 ○既習内容を定着させるために、三領域の学習を通して、漢字・語句・文法を意図的に取り上げる。また、漢字・語句に関しては「音読」の指導を積極的に取り入れることで、正しく読めるようにする。 ○書写指導の時間に加えて、日常の学習の中で、漢字の字形や点画について正しく書けるよう指導していく。
--

3 領域別調査結果の考察と指導のポイント

(1) - 1 「読むこと」【文学的文章】

(1) - 1 「読むこと」【文学的文章】			領域別正答率 (%)		H19	H20	H21	H22	H23
					52	63	63.1	68.6	78.3
大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率	
1 読むこと 文学的文章	問 1	兄やんがサチに向かってうなずいた気持ちを記号で答えなさい。 ア 楽しいな。 イ 残念だな。 ウ よかったな。 エ 腹が立つな。	ウ	イ		83.8	0.5	80	
	問 2	「その気持ち」とは、どのような気持ちですか。「～という気持ち」にあてはまるように、文章中から十九字で書き抜きなさい。	自分が採ったのだとお母さんに自慢したい	自分で採ったイタドリをほかの人にとられる		85.3	4.7	70	
	問 3	兄やんがテツオのイタドリの束を取ったときの考えを答えなさい。 ア このイタドリを自分のものにしよう。 イ この大きなイタドリをサチにあげよう。 ウ この大きなイタドリをケンチンにあげよう。 エ この大きなイタドリをテツオにあげよう。	エ	イ		88.2	0.2	70	
	問 4	「こっちの方が大切だから。」とありますが、その理由を「～から」にあてはまるように十字以上十五字以内で書きなさい。	サチが初めて採ったイタドリだ(から)	サチが初めて採ったやつだ(から)		74.1	8.4	60	
	問 5	兄やんは親分だとサチが思う理由のわかる一文のはじめの五字を書き抜きなさい。	テツオのこ	テツオの目		58.3	3.1	60	
	問 6	最後の二文は、子どもたちのどのような様子を表していますか。 ア 山里の子どもたちが、さまざまな体験をしながら仲良く暮らしている様子。 イ 山里の子どもたちが、貧しさに負けないようにはげまし合っている様子。 ウ 山里の子どもたちが、歌うことだけを楽しみに一生懸命歌っている様子。 エ 山里の子どもたちが、さびしさをまぎらわそうと大声で歌っている様子。	ア	ウ		79.9	0.5	80	

読むこと【文学的文章】

結果の概要

1 資料文について

笹山久三作『やまびこのうた』の一節である。

小学3年生のサチは、小学6年生の「兄やん」や近所の少年たちとイタドリを採りに来た。イタドリはみんなで山分けすることになっていた。しかし、テツオが大きなイタドリを草むらに隠した現場をサチは見えてしまい、テツオにそのことを告げる。サチが心配する中、みんなで山分けする場に、テツオは例のイタドリを持ってやってきた。サチと兄やんは、ほっとする。山分けが始まった。兄やんが最初に選ぶことになる。兄やんはテツオの大きなイタドリを選ぶ。サチは心の中で兄やんをなじる。

山分けが終わると、兄やんはテツオに声をかけ、テツオの採った大きなイタドリを他のものと交換する。それだけでなく、他のメンバーやサチにも声をかけ、みんなのことを考えた行動をとる。

兄やんを中心とした異年齢の子供たちの集団が、イタドリ採りを通じて心を通わせ合う姿が、生徒の心に響く。登場人物の行動が生き生きと描かれており、人物像や人間関係、心情の変化などが生徒の興味をひきつけ、自分の経験や意識と結びつけて読み進めることのできる作品である。

2 設問ごとの結果

【問1】「何度かうなずいて」という行動から、登場人物の心情を読み取る問題である。選択肢ということもあり、正答率は83.8%と高かった。期待通りの行動に対する喜びを表す行動であるということは多くの生徒が認識できているようである。

【問2】登場人物の行動や様子から心情を読み取ることができるかを見る問題である。正答率は85.3%であり、多くの生徒が適切に読み取れていたことが分かる。誤答としては、本文の表現を抜き出さずに自分の言葉で解答しているものや、解釈を加えすぎているものが見られた。

【問3】文章の展開に即して、登場人物のとった行動の意味をとらえることができるかを見る問題である。選択肢ということもあり、正答率は88.2%と高かった。傍線部のあとの「テツオ、これと取り替えっこしよう」と、「兄やんのとった行動」も合わせてとらえることで、「兄やん」の考えについて、より深くその意味が読み取れていたようである。

【問4】登場人物の心情について説明することができるかを見る問題である。記述式で答えるため、無解答率は8.4%であった。正答率は74.1%で、傍線部のすぐ前の「～サチが初めて採ったやつなんだ、それ」という表現に着目できているようである。誤答には文末表現の誤りが多く、『～から』にあてはまるように」という問題文の指示に合わせて適切に記述することに課題が見られた。

【問5】登場人物の心情を読みとることができるかを見る問題である。傍線部の文末と、次の文の文末が、同じ「と思った」であることに着目し、「親分」＝「みんなのことも、いつも大事に考えている」と言い換えられていることをとらえる問題である。心情表現の「と思った」が繰り返されていることを踏まえ、設問文の意図（読み取るべきこと）を正しくとらえることに課題がある。

【問6】作品の主題をとらえることができるかを見る問題である。選択肢ということもあり、正答率は79.9%であった。ここでは「だれかが歌を歌いだして」「やまびこも歌っていた」などの情景描写を手がかりに主題を読み取ることや、自分の解釈を加えすぎず、文章中の表現を根拠として考えることに課題がある。

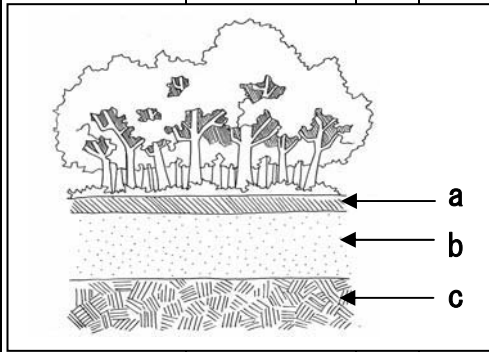
指導のポイント

○問題の趣旨を正確に読み取り、指示や条件に従って適切な表現で答えさせる。

○読み取ったことについて、自分の解釈を加えすぎず、文章中の表現を必ず踏まえてとらえさせる。

(1) — 2 「読むこと」【説明的文章】

(1) — 2 「読むこと」【説明的文章】			領域別正答率 (%)		H19	H20	H21	H22	H23
					76	52	54.3	72.7	65.2
大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率	
読むこと 説明的文章	問 1	①～⑤の段落について、適切なものを記号で答えなさい。 ア 多くの具体例を挙げて、自分の考えを読み手に示している。 イ 自分の主張を最初に述べ、解決策を読み手に提案している。 ウ 複数の人の考え方を紹介して、読み手の興味を引き出している。 エ 何について述べようとしているのかを、読み手に提示している。	エ	ア		52.8	0.8	60	
	問 2	「こうした調整作用」とは、どのようなことですか。「～こと」に続く部分を⑦段落中から二十三字で書き抜きなさい。	雨水を地中に保ち、適量を地下水として流し続ける(こと)	適量を地下水として流し続ける役割を果たしている(こと)		34.8	11.1	70	
	問 3	【 】にあてはまる接続語を選び、記号で答えなさい。 ア そして イ さらに ウ ところが エ つまり	エ	イ		74.3	0.9	80	
	問 4	文章中で述べられている森の中の「腐植土層」「落ち葉の層」「鉾物土層」を次の図のように表しました。 a、b、cにあてはまる組み合わせとして正しいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 ア a 落ち葉の層 b 腐植土層 c 鉾物土層 イ a 落ち葉の層 b 鉾物土層 c 腐植土層 ウ a 腐植土層 b 落ち葉の層 c 鉾物土層 エ a 腐植土層 b 鉾物土層 c 落ち葉の層	ア	イ		70.3	1.2	70	
	問 5	「肝に銘じて」とありますが、この慣用句の意味を次のア～ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。 ア とても心配して イ 常に忘れないで ウ 人に指図して	イ	ア		93.7	0.8	80	



読むこと【説明的文章】

結果の概要

1 資料文について

松永勝彦『魚を育てる森』からの抜粋である。海の生態系と森林とのかかわりを話題にしながら、環境保全の問題について述べた文章である。北海道襟裳岬の森林地帯とその近海の生物の結びつきについて、森林地帯の腐植土層の役割を中心に分かりやすく述べている。

環境に関する文章に接する機会が増えている生徒たちにとって、なじみやすい内容である。また、接続語に注目すれば段落構成も容易につかめ、キーワードや要点を押さえながら興味を持って読み進めることのできる文章である。

2 設問ごとの結果

【問1】 文章の構成に関する問題である。正答率は52.8%で、設定通過率60%を下回った。「自分の主張を述べ、解決策を提示している」という誤答が多く見られた。「話題提示（問題提起）」、「具体例」「解決策」等、文章の構成を意識しながら文章を読むことに課題がある。

【問2】 指示語の具体的な内容を適切に読み取る問題である。正答率は34.8%と、今回の調査問題の中で、最も低かった。

誤答としては、「雨水を地中に保ち」という部分を省き、「適量を地下水として流し続ける役割を果たしている（こと）」としたものが多かった。「調整作用」という語句の意味は、おおむねとらえられているが、本文⑦段落中の「スポンジ」という比喩表現（＝適量にする仕組みについて説明している）は、とらえられなかったと思われる。文章中での語句の意味や記述内容といった表現の特徴をしっかりとおさえた上で、より正確に読み取ることには課題がある。

【問3】 前後の文のつながりから適切な接続詞を補う問題である。正答率は74.3%であった。接続詞のはたらきについてはよく理解できているようである。

誤答としては、「さらに」を選んだものが多かった。接続する語句についての文法的な知識・理解や、これらを用いて短文を書かせるなどの表現力に課題がある。

【問4】 文章中から必要な情報を取り出す問題である。正答率は70.3%である。⑥段から⑨段までを読み、そこに書かれている内容から、図表に当てはまる必要な情報を探すものである。文章で説明されたことを図や表にまとめたり、逆に図表等の内容を文章で説明したりといった、「情報を加工すること」に、課題がある。

【問5】 慣用句の意味を問う問題である。正答率は93.7%と、十分に良くできている。慣用句、ことわざ、熟語など、語彙の指導は日頃からの成果が出ていると思われる。

指導のポイント

○段落の役割や指示語・接続語などに注意しながら文章を読むことで、文章の構成や論理の展開を正確にとらえさせる。

○文章から必要な情報を見つけて図表で表したり、図表の内容を言葉で説明したりというように、情報を目的に合わせて加工する活動を積極的に取り入れ、情報活用能力を身に付けさせる。

(2)「言語事項」

(2)「言語事項」				領域別正答率 (%)		H19	H20	H21	H22	H23
						70	85	71.4	70.2	78.3
大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無会解答率	設定通過率		
言語事項 漢字の読み書き	3	1 今日 <u>はサム</u> い。	寒	寒 寒		69.3	2.9	70		
		2 本を <u>カ</u> りる。	借	貸		70.8	3.7	80		
		3 <u>ビョウイン</u> に行く。	病院	痛院		86.2	2.7	80		
		4 薬の <u>コウカ</u> が表れる。	効果	郊課		71.7	10.6	70		
		5 <u>陰</u> しい表情になる。	けわ	きび		95.5	1.0	80		
		6 <u>規模</u> が大きい。	きぼ	きも		90.8	2.1	80		
		7 班長を <u>支</u> える。	ささ	そな		97.5	0.7	80		
		8 彼の <u>胸中</u> はどんなものか。	きょうちゅう	むねなか		45.2	12.9	70		
言語事項 漢字の読み以外	4	問 1 次の——線部にあてはまる漢字を（ ）の中から一つ選びなさい。 (1)中学生を対 <u>ショウ</u> (ア 象 イ 照 ウ 称)に調査する。	ア	ウ		62.4	0.2	70		
		(2)税金をきちんと <u>オサ</u> (ア 治 イ 修 ウ 納)める。	ウ	ア		91.0	0.3	70		
	問 2	にあてはまる言葉を答えなさい。 私は、お昼までに会場へ ので、 午後にはお会いできると思います。 ア いらっしゃいます イ 参ります ウ おいでになります	イ	ウ		93.2	0.2	80		
	問 3	次の古文の にあてはまる言葉を書きなさい。 今は昔、 の翁といふものありけり。	竹取	竹取の		89.0	2.8	80		
	問 4	行書で書かれている次の漢字を楷書で、 ていねいに書きなさい。	間	向		86.2	2.1	80		
	問 5	次の文を「だから」を使って二つの文に分けると、前の文の終わりの五字と後の文のはじめの五字を書きなさい。 入学式の日、新しく中学校に入ってきた一年生が、教室の場所がわからなくて困っている様子でしたので、わたしは、その一年生を案内して教室までいっしょに行きました。 。だ か ら、 	様子でした。 (だから)わたしは、	でしたので。 (だから)わたしは、		48.1	5.0	70		

結果の概要

1 設問の意図

漢字の読み書きは、すべて小学校で既習の学年別配当漢字から出題した。また、本調査を受けた生徒が小学校5年、6年のときに市、国の同一調査問題を受けており、その後の習得状況を見るために出題した。また、漢字の読み書き以外の語句に関する問題は、中学校1年生の授業も含めて、広く出題した。

2 設問ごとの結果

③ (漢字の読み書き) について 〈正答率 78.4%〉

- 1 一般的によく使う語句であるが、誤答例で示したように、字形を誤って覚えている例が多い。
- 2 「貸す」と混同して覚えていると考えられる誤答が多い。
- 3 「はね」ができていないなど、字形の誤りが多い。
- 4 無解答率が10.6%と高く、「郊」「化」など同音の漢字による誤答が多い。
- 5、6、7 いずれも正答率が90%を超えており、正確に読めている。
- 8 無解答率が12.9%と高かった。漢字の意味は理解しているが、正確な読み方については、理解しないまま読んでいると考えられる。

④ (漢字の読み書き以外) について 〈正答率 78.3%〉

【問1】

(1) 「対象」「対照」「対称」の使い分けを問う問題は、過去に全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査で続けて出題されており、課題が見られた問題である。今回も正答率は62.4%であった。抽象的な語句であるため、意味による使い分けができていないことに課題がある。

(2) 漢字の示す意味から正しい使い分けを判断しやすいものと見られる。

【問2】正答率が93.2%で、尊敬語と謙譲語の使い分けが正しく理解できている。

【問3】「竹取物語」の冒頭文の語句を答える問題である。正答率は89.0%で、暗唱などによってこの冒頭文が定着していると考えられる。

【問4】平成20年度より同様の問題を出題しているが、いずれも正答率がほぼ80%を超えており、行書の特徴的な書き方である画の連続についてはおおむね理解できている。

【問5】接続助詞「ので」を使用した一文を、接続詞「だから」を使って二文に書き換える問題である。正答率は48.1%と低い。誤答には前の文の文末が整わないものなどが多く、接続語や接続詞の理解はできているが、文を整えて書くことに課題がある。

指導のポイント

○漢字の学習について

- (1) 辞書を用いた学習活動をより積極的に取り入れながら、漢字のもつ意味や文脈における語句の意味を正しく理解させる。
- (2) 音読を多く取り入れることで漢字を正しく読めるようにさせる。
- (3) 書写指導等で字形や点画について正しく書けるようによりきめ細かく指導していく。

○言葉のきまりについては、「読むこと」や「書くこと」の学習でも取りあげ、言葉に対する意識を高めながら言語感覚を磨くように指導していく。

(3)「書くこと」

(3)「書くこと」		領域別正答率（％）	H19	H20	H21	H22	H23
			66	72	59.7	60.3	71.1
大問・領域	問 題		自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率	
書くこと	5	次のA、Bは、さいたま市に在住していた詩人 みやざわしょうじ 宮澤 章二氏の詩の一部です。 どちらか一つを選び、その内容について感想を後の条件にしたがって書きなさい。 A 道がある 明日から歩く自分の道がある 道がある ほほえんで待っている道がある （「自分の道がある」の一部） B 〈進もう〉と決意するからこそ道がある 自分の道は自らの努力でしか歩けない （「出発の意味」の一部） 【条件】 ①A・Bどちらについての感想か、解答用紙の決められた欄に記号を書くこと。 ②感想は、 <u>あなたの経験や身の回りの出来事など</u> と関連付けて書くこと。 ③原稿用紙には、題名、氏名を書かずに、本文から書き始めること。 ④原稿用紙の正しい使い方を守ること。 ⑤原稿用紙に十行以上で書くこと。（書ききれなかった場合は、欄外に書いてもよい。）					
	条件作文		71.1	5.4	80		

書くこと

結果の概要

1 資料について

さいたま市に在住していた詩人、宮澤章二氏の詩の一部抜粋である。

A、Bの二編とも、自分自身が歩むべき「道」をテーマにした詩であり、自分の進むべき「道」を模索しながら生活している生徒たちには、共感しやすい詩であると思われる。Aの詩には、自分を待っている「道」、Bの詩には自ら切り拓くべき「道」というように、両者には対照的な「道」の存在が書かれており、一人ひとりの生徒の思いや考えによりよく合う詩を選ぶことができるように配慮した。

2 出題の意図

二つの詩から一つを選び、それについて自分の体験を交えながら感想を書く問題である。

ここでは、「読んだことを自分自身の生活体験と結び付けながら、思いや考えを書く力」が望まれる。主なねらいは以下の2点である。

- (1) 詩の内容と自分の体験を結び付け、思いや考えを述べるための材料にすること。
- (2) 上記の材料を用いて、自分の思いを分かりやすく述べること。

上記2点の他にも、表記や語句の用法、読みやすい文章を書くことをねらいとしている。

3 結果より見られる課題

正答率は71.1%で、設定通過率80%を下回ってはいるものの、昨年度の「条件作文」問題の正答率60.3%に比べると正答率が10.8ポイント上がっている。無解答率は5.4%で、これは昨年度と同じ値である。

昨年度の「グラフを読み取り、考えを書く」問題に比べ、本年度の問題は読み取るべき内容がはっきりとつかみやすかったこともあり、おおむねよく書けていた。しかし一方で、読んだことと自分自身の経験とを関連付けることが不十分なまま、思いや考えのみを記述した誤答が多く見られた。

また、誤字・脱字のほかに、次に挙げる表記、語句、叙述の仕方に課題が見られた。

- ・書き出し、段落の一字下げ
- ・「 」や句読点の正しい位置
- ・文中の係り受け
- ・文体の統一性
- ・正しい表記（数字の表記、形式名詞・形式動詞など）
- ・話し言葉と書き言葉の使い分け

指導のポイント

- 他の領域を主な目標とした授業の中にも、「書くこと」を積極的に取り入れ、思いや考えを文章で書く活動を増やす。例えば、「読むこと」において、自分の生活体験や既得の知識を本文の記述と結び付け、それを基に自分の思いや考えを書くなどの活動を積極的に取り入れる。
- 文章を書く際に、正しい表記、言葉遣い、文法等を意識しながら書く習慣を付けさせる。また、書き上げた文章を読み返したり、複数の生徒で互いに読み合ったりして推敲する活動を取り入れ、読みやすく、分かりやすい文章の作文力を身に付けさせる。